

日本の産業Ⅰ

科目ナンバリング ECP-213

選択 2単位

江本 伸哉

1. 授業の概要(ねらい)

鉄鋼業界は時代遅れの古い産業(オールド・エコノミー)の代表選手のように思われがちですが、実は日本が今なお国際競争力を維持している数少ない基幹産業の1つです。

この「日本の産業Ⅰ(鉄鋼)」は、秋期の「日本の産業Ⅱ(鉄鋼)」と接続して通年の授業とします。このため、通年(ⅠとⅡ)受講を強くお勧めします。ただし、学生の皆さんの都合により春期(Ⅰ)のみ、あるいは秋期(Ⅱ)のみの受講も可とします。

まず前半の「Ⅰ」(第1回～第15回)では、戦後日本の経済復興、高度経済成長を支えたわが国鉄鋼業界の波乱万丈の歩みを解説します。戦後日本の鉄鋼業は産業界の「長男」として、産業界、経済界をリードしたので、鉄鋼業の戦後史を学ぶことで日本経済の戦後史も学ぶことができます。

続いて後半の「Ⅱ」(第16回～第30回)では、①かつて世界の鉄鋼業界をリードした欧米鉄鋼業界、②日本の鉄鋼業が世界を席巻した後、台頭してきた韓国、中国、インド、ブラジル、台湾、インドネシア、ベトナムなど新興鉄鋼メーカーの追い上げを説明し、③こうした中でわが国鉄鋼業界がなお国際競争力を維持している理由を明らかにします。④さらにわが国鉄鋼業界が抱える課題についても説明します。最近の「脱炭素」のような強い逆風にも触れます。

全体として、わが国鉄鋼業の強みと泣き所を理解してもらい、現代日本の経済・社会を支えている重要な基幹産業であることを知ってもらうのが最大の狙いです。教科書はありません。毎回プリントを配ります。また、授業で生じた質問・感想・意見、要望・提案などは、3回に1回、授業内容を振り返る復習問題「ミニツツペーパー(MP)課題」に書いて提出してもらい、それに対する私なりの回答をまとめた「MP通信」を次の授業で配ります。

新日本製鉄(現日本製鉄)の元幹部で経営企画部や米国新日鉄社長、耐火煉瓦関連会社の黒崎播磨の社長・会長などを務められた伊倉信彦さんを授業内の外部講師としてお招きして、春期1回、秋期2回、生々しい鉄鋼業界の話をしていただく予定です。

2. 授業の到達目標

- ①戦後の日本経済においてわが国鉄鋼業が果たした役割を理解する。
- ②世界の鉄鋼業界が大きく変動する中でわが国鉄鋼業界の位置づけを理解する。
- ③新興国が追い上げる中でわが国鉄鋼業界がなお国際競争力を維持している理由を理解する。
- ④日本の鉄鋼業界が抱える課題を理解する。

3. 成績評価の方法および基準

- ①評価は春期(Ⅰ)と秋期(Ⅱ)で別々にします。
- ②対面なら出席回数が3分の2(原則として10回)未満、オンラインならMP5回と期末レポートの合計6回のうち提出4回未満の場合、単位を与えません。D2(再試験不可)とします。
- ③MP点が60点(MP1枚12点×5回＝60点)満点。
- ④期末レポートが40点満点。
- ⑤MP上で特に鋭い質問、なるほどという感想・意見、有益な要望・授業改善提案があれば、その都度、③④とは別に特別加算(5～20点)をします。

4. 教科書・参考文献

教科書

なし(毎回レジュメを配布)

参考文献

稲山嘉寛 私の鉄鋼昭和史 東洋経済新報社

永野重雄 君は夜逃げしたことがあるか 私の人生経験と経営理念 日刊工業新聞社

5. 準備学修の内容

- ①「日本経済新聞」など経済紙、「日経産業新聞」など産業紙、「日経ビジネス」「週刊エコノミスト」「週刊ダイヤモンド」など経済誌で鉄鋼業界に関する記事を意識的に読むようにしましょう。
- ②参考書に挙げた『私の鉄鋼昭和史』は八幡製鉄社長、新日本製鉄社長、経団連会長を歴任し、「我慢の哲学」を経済界に説いた稲山嘉寛さんの自叙伝です。『君は夜逃げしたことがあるか』は富士製鉄社長、新日本製鉄会長、日本商工会議所会頭を務めた永野重雄さんの自叙伝です。どちらも分かりやすく、面白い本です。ぜひ読んでみてください。図書館にあると思います。

6. その他履修上の注意事項

- ①対面なら3分の2(原則10回)未満、オンラインならMP課題5回と期末レポートの計6回のうちの提出4回未満の場合、(たとえ期末レポートを提出しても)単位を与えません。D2(再試験不可)とします。
- ②公欠の場合は1か月以内に私に届けを出せば、MP点を半分(対面なら2点、オンラインなら6点)を与えます。
- ③対面の場合、私語、スマホ操作、食事は原則禁止。注意しても改めない場合は退場とし、その日のMP点4点を失うことになります。
- ④学生の皆さんの集中力を保つため、途中で5分間の休憩を取ります。休憩中は私語、スマホ操作、トイレ、ストレッチ体操などが自由にできます。また、休憩用に皆さんのリクエスト曲や私の好きな曲など音楽を流します。
- ⑤第1回(4/15＝木曜日)と第2回(4/16＝金曜日)はオンデマンド授業※です。それ以外はコロナの状況次第で、対面かオンデマンドになります。ご注意ください!

7. 授業内容

- | | |
|-------|---|
| 【第1回】 | 4/15＝オンデマンド授業※
ガイダンス(江本自己紹介、授業の進め方、評価方法、約束事)
グラフで見る日本鉄鋼業と日本経済 |
| 【第2回】 | 4/16(金)＝オンデマンド授業※
戦後復興——八幡集中生産と傾斜生産方式 |
| 【第3回】 | 4/22
朝鮮戦争特需——日本経済復活の最大の要因 |

- 【第4回】 5/6
設備近代化——米国に追い付き、追い越せ
- 【第5回】 5/13
「七色の煙」が鉄鋼人の誇り——高度成長の熱狂の中で
- 【第6回】 5/20
光化学スモッグ、水質汚濁——公害の発生と克服(外部不経済)
- 【第7回】 5/27
北九州・戸畑に鉄鋼一貫製鉄所——臨海埋立地で高効率、低コスト生産
- 【第8回】 6/3
首都圏に一貫製鉄所ラッシュ——需要地立地、一極集中加速
- 【第9回】 6/10
八幡・富士「世紀の大合併」——プライスリーダーづくり「撃ち方やめ」
- 【第10回】 6/17
新日鉄シームレスパイプ進出——オイルショック、高度成長の終焉が裏目に
- 【第11回】 6/24
高炉休止、人員大幅削減——「プラザ合意」後の円高不況で未曾有の赤字
＝期末レポート課題出題
- 【第12回】 7/1
スペースワールド誕生——複合経営へ半導体、テーマパーク……何でもやる
- 【第13回】 7/8
スペースワールド売却——本業回帰、不採算部門整理(複合経営路線は放棄)＝元新日鉄幹部・伊倉信彦さん講演
- 【第14回】 7/15
川鉄・鋼管経営統合、新日鉄・住金合併——ゴーン・ショックまざまざ
- 【第15回】 7/22
「日本製鉄」復活——新日鉄住金、日新製鋼完全子会社化
＝期末レポート提出締切